

岩手教区報

第351号
 立教185年3月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



理と情
 九戸支部長
 学生担当委員長
 権谷正一

とても大きい声では言えませんが、50代半ばを過ぎて私は随分と涙もろくなりました。「何を今さら、以前からそうだったじゃないか」と言われればそれまでですが、ここにきてそのもろさにますます磨きが掛かりました。ドラマを観ては涙を流し、北京オリンピックではうれし涙も悔し涙もこみ上げてくる。孫に笑顔で見つめられたら、もうたまりません。傍から見れば間違いなく呆れられるでしょう。ところが、自分でも情けないぐらいの場面を経験するうちに、気づいたことがあるのです。私の涙腺を刺激するもの、それは情だと思えます。すなわち、悲しく辛い境遇の中を目標に向かって必死に努力する姿や、それを乗り越えて得た喜びなどが、以前よりも強烈に情に響いてくるのです。面識のない他人が、我が子のように、我が家族のように、我が事のように私自身の情に響き、涙がこみ上げてくる。思案が飛躍するかもしれませんが、教祖のひなたに拝される「どんな人にも分け隔てなく、全ての人を慈しみお育て下さる」お姿こそ、親の情がぎゅしりと詰まっていたお姿ではないかと、今さらに親

心の深さと温かさに思いを致します。人は教祖の親の温もり、つまりは情によってこの道にお引き寄せ頂き、ここまでお導き頂いたのだと思えます。世の中は絶対的な摂理で成り立っています。しかし、理屈だけでは、苦しくなってしまうこともあります。例えば、願い通りに回復に向かわない身上の方とおたすけ人との間に教理しかなかったら、双方が苦しい思いになりかねません。でも教祖のひなたがあるから、おたすけ人は身上を病む方に寄り添い続けることが出来ると思うのです。もちろん、情だけでは収まりがつきませんから、厳然たる摂理、天の理があつてこそではありません。現在2年以上続くコロナ禍に加え、悲惨な軍事侵攻など、人間の根本的な生き方が問われています。ご存命の教祖にお継りしつつ、世の中の一日も早い治まりを祈り続けたいと思います。そして、この道の先人が教祖の理と情にお引き寄せ頂いたように、私たちも少年会員や学生層を含めた若い世代、そして教えを知らない方々に教祖の親心を伝えていきたいと思えます。

信仰随想
法楽
 前岩手教区長
 中田俊次

「潰瘍性大腸炎」

以前、私が「憩の家」事情部に奉仕させて頂いていた頃、ある難病の方のおたすけに何度か運ばせて頂いた。その方は「潰瘍性大腸炎」で絶えず激しい下血に襲われ、何時治るとも知れぬ闘病生活を送っておられた。

彼は大学に入った当初は希望に燃えていたが、突然の発病以来入院をくりかえし、なかば絶望に近い思いの日々を過ごされていた。今日では医療の進歩もあつて手術も可能となり、普通の生活を送ることもある程度できるようになったとはいえ、未だ決定的治療法もない難病には変わりなく、風邪をひくだけで時として危険な状態になる事もあるという。当時一生治らない病と宣告された時は、出口の見えない心境だったと思う。友人が見舞いに来て嬉しくない。「何故、

自分だけがこんな目に遭わなければならぬのか」と嘆く日の連続だったという。見舞いに来てくれる人の服は「院内の人」と違つて「外の匂い」がして辛いというのである。人は辛い時は「がんばれ、がんばれ」と激励されたり、独りよがりな、明るい元気な話や厳しい説教を聞かされるよりも、病む人の苦しみ、難儀に共感し、寄り添うぬくもりある心遣いで接する方が遥かに喜んで頂けて、病む人の心が救われるものだと感じたものである。

彼は入院当初、読書に没頭して不安な心を紛らしていた。或る時、カフカの作品「変身」を読んでいた。内容は主人公が朝起きると、突然虫になつて話である。その状況は部屋から出られなくなつて今自分の自分そのもののように思われ、何故か救われるというのである。病み、苦しんでいる患者さんの苦悩にどこまで寄り添うことが出来るか。我々お道の信仰者は、教祖の「ひながた」に「優しいなあと思つてもらふことが世界を救う台になる」とお諭し頂く。

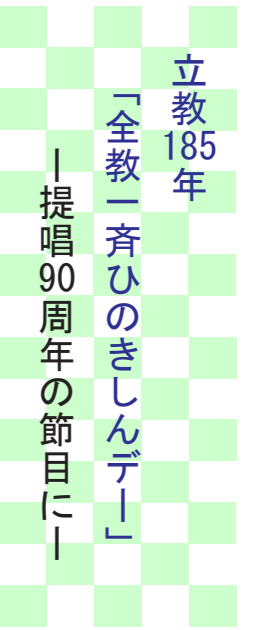
教祖は最初から、厳しい仕込みや教理を説かれたりされなかつた。優しい言葉を掛けられ、或る時は手を握られ、体を撫でておられる。人だすけの上に、教祖

の歩まれたご苦勞のひながたの随所に、限らない親心が感じ取られ、そこには、常に不思議たすけをお見せ頂いている。

行事中止のお知らせ
 3月21日、31日に予定されていた
 県南支部「みおしえ学習会」は、中止となりました。

行事予定 【3月分】

- 1日 主事会(16時)
- 2日 献血推進研修会(10時)
- 7日 役員会議(献血推進研修会後) ひのきしんフェスティバル プロジェクト会議(13時30分)
- 8日 学生担当委員会例会 on line(19時)
- 13日 青年会ひのきしんデー (9時 於久慈市)
- 20日 婦人会例会(10時30分) 女子青年例会(10時)



既報の通り、今年「全教一斉ひのきしんデー」提唱90周年の節目となります。この旬に、「全教一斉ひのきしんデー」がまさしく全教挙げての取り組みとなるよう、そして教祖百四十年祭にむけての足掛かりの活動となるようつとめさせて頂きたいと思えます。

岩手教区では、各教会に昨年の2割増しで参加目標を設定して頂き、教区全体で千名の参加者を目指します。

また、岩手教区独自の案内チラシを作りました。表はひのきしんデー会場を告知し、裏面には少年会員に書いてもらったイラスト(テーマ「笑顔」)を載せました。このチラシを大いに活用して頂き、大勢の方にひのきしんデー参加を呼びかけて頂くようお願い致します。

なお、岩手教区では4月29日から5月29日までを「ひのきしん強調月間」と定めました。この期間に支部や組で設定した会場での参加者はもちろん、各教会やようばく単位での実施の場合も、報告書提出後になります。もれなく記念品を

お渡しします。さらに、5月29日に教務支庁で開催する、「献血ひのきしん主体の「ひのきしんフェスティバル」については、模擬店や物産展など趣向を凝らした計画もしています。乞うご期待。

案内チラシ(表)



案内チラシ(裏)



青年会

「教区青年会ひのきしんデー」

あの日をわすれない

【3月13日】

あの未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、11年目の月を迎えました。時間の経過と共に、震災の記憶が薄れてきていないかを自分達に問いながら、また多くの支えがあつての今であることに思いを致してひのきしんをさせて頂きま

す。コロナ対策を講じて屋外での活動を行います。寒さも未だ厳しい時期にて、寒さ対策を講じて、1人も多くの方に参加して頂きたいと思えます。

記

日時: 3月13日 9時~11時
場所: 久慈市舟渡海岸
内容: 幸せ拾い
携行品: 火ばさみ、長靴、軍手など
申込: 相澤 一元委員長まで (090 7663 7581)



学生担当委員会

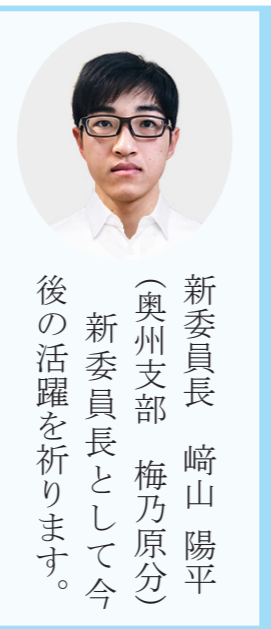
「岩手教区学生会の集い」報告



教区学生会(高野慎司委員長)では、去る2月13日10時より、「岩手教区学生会の集い」をオンラインで実施、9人(含中学生3年生2人)の学生が参加した。

まず加藤教区長より挨拶があり、祈りの力は距離を超えて届けられること、人のために祈ることの素晴らしさについて話され、さらには「人のたすかりを願っておつとめをつとめ、苦しむ人におさげけを取り次ぐようばくへと成人してほしい」と、新年度に向けての大切な心構えを示された。次に高野委員長が学生会活動の意義について、自身の体験談を交えて述べた。引き続きゲームリーダーもつと

TM 学生会新委員長紹介



新委員長 崎山陽平 (奥州支部 梅乃原分) 新委員長として今後の活躍を祈ります。

めて、参加者は互いの親睦を深めた。最後に、今年度で学生を了える高野委員長から、崎山陽平君が次期委員長として引き継がれ、参加者一同はこれからの学生会活動を心合わせて進めていくことを確認し、11時15分に終了した。

「春の学生おぢばがえり」【3月28日】

来る3月28日10時より、本部中庭にて「立教185年春の学生おぢばがえり」が開催されます。また前日27日午後1時より、前日祭(春まつり)の動画が配信されます。教区学生担当委員会では、現在のコロナウイルス感染状況を鑑み、教区としての団参は行わず、教会単位やご家族での帰参を推進することに致します。帰参さ



献血推進委員会

「献血呼びかけひのきしん」

実施報告

去る2月11日、岩手県赤十字血液センターの依頼を受け、イオンモール盛岡南において、献血呼びかけを実施し、午前4人午後4人がひのきしんに参加した。祝日の割には人出が少なくと思われたが、献血者は40名以上だった。

今回、ひのきしん初参加者がおられ、最初は緊張の声掛けだったが、「献血したいのですが、献血場所を教えてください」との問い合わせに、笑顔で案内をされていた。プラカードを持っていると色々尋ねられるので、献血について勉強しておく事の大切さを感じた。